

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31 年 3 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103742		
法人名	有限会社 平野		
事業所名	グループホーム ファミリーホーム		
所在地	〒731-3361 広島市安佐北区あさひが丘1-1-10 (電話) 082-838-4165		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103742-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成31年3月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

運営面では、困難事例の受け入れや精神科患者等の対応をはじめ、柔軟にご利用いただける施設として活動しています。例年行ってきた研修や行事はそのままに、新しい取り組みを続けております。また、看取り介護の実績もあり、昨年度は法人（同一敷地内）にて約20件の対応を行いました。他界することの意味や生存していることの意味を見つめなおし、日々の介護へフィードバックできるよう1件ずつを大切に看取っています。また、高齢者の生活全般において医療行為をどれだけ実施するのか？それは延命につながるのか？高齢者の持つニーズは反映されるのか？を課題とし、日々検討を行っております。更に人権、権利についても同様に捉えられており、いづれ来る安らかな終末をご家族と共に歩めるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

フロアの広い窓から一望できる風景（季節感や人、車の動き）やゆとりある共同空間と共に、離れた個所にベンチやソファを置く等、個別の空間作りをしている。視野からの混乱を招かないようシンプルで分かり易い環境となっている。看取り時を含め、睡眠・食事などの生活アセスメントは他職種を含め多方面から行われ、発信される言葉を常に尊重して、職員全体で「本人はどうか」を協議し具体的な支援を行っている。蓄積された経験は職員を育て、PTSD対応にも反映され、利用者の持てる力を活かし家族との繋がりを新たに構築した事例もある。管理者は、利用者が「親」としての気持ちを復活させるイベントや権利、人権を意識したケアを職員と共に協議したり、処遇困難ケースや看取りに関しても「介護従事者」としての誇りと利用者との出会いに感謝しようを発信し続け、新たな取り組みに繋げている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人全体の理念「地域に密着したアットホームな介護を提供する。」に基づいて家庭的な介護を実践している。	設立当時の事業所理念は、機会あるごとに管理者と共に、真の意味を振り返り、揺るぎない介護の根幹として、日頃から職員全体で意識し合っている。「本人はどうか？」を常に職員間で追求し、家庭的な関わりに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りや、小・中学校の行事等、地域の方々の理解・援助を受け参加できている。	自治会や民生委員などを通じて地域行事の情報を得るほか、管理者自らが企画に携わっている。また、近隣のグループホームと共に、カラオケ交流会や風船バレー大会などを行っている。事業所は「住民として」の立場で様々な行事に参加し、日常的に地域交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事や運営推進会議を通じ、グループホームの特性や入居者の理解について知っていただく体制を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	閉鎖的なサービスではなく、日常的に地域へ情報を発信し、また地域を招いた行事を開催している。	2か月毎に会議を開催し、事業所における日頃の取り組みなどを伝えている。自治会役員・民生委員・包括支援センター・社会福祉協議会などの出席がある。「地域の課題」に関する意見交換を行う事もあり、地域包括ケアシステムの一部を担う会議を継続させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	他の施設での入居困難なケースを行政担当者と協議し、受け入れ、新たなサービスの構築を実践している。	行政担当者に、事業所の実績を伝えるほか、介護の見識や社会資源などに関する協議を継続している。密な連携や協力体制は、困難ケース処遇や有効な福祉制度の利用に繋がっており、新たなサービス構築に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束とは何か？を常に職員と共に捕らえ、空間や衣類また、生活圏にいたるまで拘束とは括ることではないことを徹底している。</p>	<p>声かけなどを含め、日頃から抑制しないケアを職員全体で意識している。玄関は中からの簡易鍵となっており施設前の広場へ自由に行き来でき、時には同行を行っている。低床ベットや行動察知の為の足元センサーマットなどを用い、安全・人権を守る事に徹し、身体拘束は行われていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>当施設の虐待防止マニュアルの周知徹底をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体とし、後見制度に関わっている。また、実践的に後見人やご家族を対象とした、ケア指針のカンファレンスなどを展開している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>パンフレットや内部見学していただき、生活の様子を見ていただいている。また、過去の行事の写真等により活動の状況を伝えている。合わせて重度化した場合の指針も説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>常に家族等からの不満・苦情は受け入れる体制を作り、面会時等に積極的に声掛けを行い、情報の開示及び意見をいただくよう努めている。</p>	<p>早く面会に来て頂けるよう配慮し、家族からの要望や意見を常にお聴きしている。一例として、要望「夫婦だけでの外出を行いたい」に対し、チームで多方面からの支援を続けた結果、叶ったケースがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>人事考課も導入し管理者と職員で具体的に話し合い取り組む。また、職員行事を年2回開催し、職員のモチベーションへ繋がるよう考慮している。施設代表者とリーダーは毎朝情報を共有している。</p>	<p>管理者は、職務意識を幅広く捉えて職員個々に声かけを行い、意欲に繋がる楽しい企画を職員に提供している。普段から意見を言いやすい職場環境となっている。また個々の気付きを用紙で発信し他職員との意見交換後、実践する体制があり、音楽を聞きながら体を動かすレクに繋がった例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職務理念の徹底とモチベーションの維持が出来るようその評価をタイムリーに実施している。特に職員に対する声掛けに配慮している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内で外部講師を招き月1回の研修を行っている。また、研修終了後は、会場にて会食を兼ね意見を交換しやすい環境を整備している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>事業者の交流会に参加し他の事業所の状態や取り組みを聞く等、意見交換を行っている。また、外部研修等にも参加し、質の向上に努める。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始までに、情報を収集し職員で協議している。また、開始時は身心が強く緊張しているため、入居者のペースの確保に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時より、職員との距離が遠くならない様配慮し、気軽に声がかけあえる関係が構築できるよう努めている。また、伺った事には出来るだけ迅速に対応する。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居時に提供して頂く資料だけにとらわれず、新しい空間へ適応されていく中で必要とされるものを見極めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一緒に過ごす時を家族のような関係で過ごすことを優先するよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の情報をもとに、状態の変化様子を細かくお伝えし連携を取っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みのある物に囲まれて暮らしていただけるように個室を使っていただく。家族写真も掲載。</p>	<p>入居前の住いに訪問した際、馴染みの物や使い慣れた家具の搬入を勧め、施設での自室メイクを共に行っている。また、関係が途切れないよう手紙や電話の支援を行い、更に同敷地内のサ高住に出かける事や近隣グループホームとの交流により、新たな馴染みの人、場所を作る事にも取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士の関係にトラブルが生じないよう職員が気を配っている。また、能力に応じた小規模レクリエーションの展開なども行っている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	退去後も、入居中と変わらず関わられるよう対応している。施設側からの連絡は殆どないが、退去時に「何か困ったら・・・」と必ず声をかけ、相続、葬儀、納骨等の助言も行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	コミュニケーションをはかり、個々のニーズを引き出し、ポジティブプランを作成している。また、月1回、訪問看護、訪問歯科医、歯科衛生士を交えたカンファレンスを行いサービスにつなげる。	心地よいコミュニケーションを心掛け、少ない言葉や表情から垣間みえたものを捉え、生活アセスメント表にて職員間で共有している。他の職種からの意見も取り入れ、要望の背景を察しながら具体的な支援に繋げている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	ご家族や、前担当者よりの情報を頂いている。また、知人の面会時には許可があれば昔の様子を聞いている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	日々の生活や行事への参加を通じ、しっかりと潜在する能力を見極めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人様のニーズとご家族様のニーズを聞き取ってケアプランに盛り込んでいる。ご家族様がプランに協力できる場合はお願いしている。</p>	<p>生活アセスメントや医療情報を加味し、担当者会議を行い計画作成を行っている。計画書は「本人はどうか」を察しながらの文章表現になっており、外出支援など家族の協力を繋いだケースもある。通常3か月毎のモニタリングにてニーズや支援方法などの見直しをチームで行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の行動記録を使用して情報の交換を行っている。また、必要に応じて個別に状態を記録しデータの収集を行う。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険の制度に関わらず、共に支えあえる関係を本人やご家族と築き必要に応じて支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>学校の体験学習の受け入れや地域の民生委員見学などを受け入れている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>代行の受診結果で変化があればご家族に報告し直接主治医と相談していただく。細かい報告もその都度に報告している。</p>	<p>協力医療機関の特長や往診などを説明し、同意を得ている。管理者は、全員のバイタルや体調を主治医に毎日、報告し、看護師を通じてタイムリーにケアに反映させている。受診時は同行し普段の様子を直接報告している。また結果は家族にも報告を行い、適切な医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>同一法人内に配置している担当の看護師がいる。また週1回以上訪問看護ステーションの看護師と調整を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時3日に1回は病院に訪問し、医療機関と連絡調整を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した指針の説明を行いご家族様で重度化した終末期について話し合いをおこなってもらうよう説明している。</p>	<p>重度化や終末期には、医療機関と連携をしながら看護師などと共に、チームで支援出来る事を、契約時に説明している。状況によりその都度、チームで話し合いを重ね、尊厳と気持ちに寄り添う体制を構築し、看取りの支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>定期的実践指導を行っている。また、退院時や医療機関での研修に参加指導を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>半年1回に避難訓練を行い入居者様に意識をしていただく。また、近隣の同法人施設より応援体制を作っている。</p>	<p>消防署の協力を得て、利用者、自治会、同敷地内の施設の職員も含め火災訓練を行っている。管理者は、気象情報から早めの対策をたて迅速な連携と安全な避難誘導が出来るように、日頃から緊張感のある実践指導を行っている。更に、近隣住民や職員の避難所としても機能するように、法人全体で取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	指導・研修にて教育を実施し一人一人の人生を大事にしている。	一人ひとりの異なる生活リズムや思いを尊重し、職員は常に「本人はどうか」を大切にして、声掛けや関わりを行っている。利用者個々から自由に表現・発信しやすいよう、また自ら決定しやすい場面を工夫する対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の自由な表現が出来るよう、オープンクエッションを用いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まったプログラムやマニュアルは使用せず、個々のペースに合わせた生活を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望があれば実践している。例えば眉毛を書く等の整容支援や、外出時のコーディネートなど。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	イベント等の時には、希望に沿ったものが提供できるようにしている。可能な限り手伝いなどの入居者からの協力をもとに展開している。	併設施設で調理され、必要時、個々にあった形態に刻んだり、汁物を作っている。また、手作りおせちや手作り弁当、春菜調理などは、職員自らが食材を採りに行き、楽しみになるイベント食事を工夫している。今後、利用者と共に干し柿作りも企画している。事業所は、美味しく食べる為の「口腔環境」作りにも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	水分は必要量確保できるよう努めている。基準を食事と合計で2000ccとし、Drの判断を用い疾患を考慮しつつ経口から摂取できる形態を準備し確保している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	定期的に協力歯科医の口腔ケア指導を受けている。週に1度は歯科衛生士チェックを受けており，毎食後の介護職員のケアにつなげている。定期的な研修を実施し技術向上に努めている。また，脳梗塞の早期発見につながる症状観察を行っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	出来る限り失禁に結びつかないように，小まめな誘導や，排泄間隔を見つけていけるよう支援している。すぐに排せつ用具（オムツなど）に結び付けないよう，しっかりとした検討を行う体制を取っている。	排泄前の言動や癖などに関して，職員は情報交換と多方面からの検討を重ねている。それらは，言葉かけの工夫など個々の特性を知る事に繋がり，プライドの配慮と自立に向けた支援体制がある。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	自力では困難な入居者には下剤などを用い疾患の発症を予防している。また，BPSDの基になることもあることより，必要な水分の提供量や時間帯，方法を考慮している。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	疾患（心疾患、血管塞栓疾患、皮膚疾患など）に考慮し，安全に毎日入浴を実施し，入居者の希望に沿うようにしている。（夜間は除く）また，スキンケアにも着目し保湿に注意している。	希望により週2～4回の入浴が可能である。個々の疾患や表皮の状態も配慮した効果的な入浴をアセスメントし，回数・時間など，一人ひとりにあった声掛けで入浴を楽しんで貰えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>個々の生活パターンに注意し、 生活空間内で休息がとれるよう、 ソファなどを配置している。また、 夜間はゆっくり休めるよう努めて いる。ただし、不眠も病的でな ければ習慣的なことと捉え過 ぎして頂けるよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>個々の内服量を職員間で周知 徹底している。変薬、追薬など も漏れがないよう確認を行って いる。また、法人内の看護師や、 かかりつけ薬剤師との多重チェ ックを実施しており、薬効につ いても研修を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>外出を中心とした、気分転換 や季節感(R・O)などを取り入 れたレクリエーションを計画し 実施している。年に1回の風船 バレー大会は親の顔(親としての 役割)を作る機会ともなってい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。</p>	<p>希望に沿って、実施している。 簡単なお散歩、日光浴は随時 行え戸外で職員と共にジュース などを飲む機会もある。また、 季節行事では自治会の協力も あり、場所の確保や参加につ いて配慮して頂いている。</p>	<p>その日の天気や要望により、 自然に囲まれた施設前広場の 散歩や衣料品などの買い物を 楽しんでいる。民家の協力も あり、庭や桜観賞、写真撮影 の機会があるほか、道の駅、 紅葉狩りなどに出かけている。 個別の外出として、家族の 協力で外部の「家族会」に定 期的に出席している事例があ る。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>希望があれば外出時の買い物 などで使用できる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話はあまり現実的ではないが、お手紙は、希望時に書かれている。また、交流のあった方などからのお手紙に対して返信の支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用スペースは明るく季節の物を飾ったり、家庭的な雰囲気作りを提供している。</p>	<p>共有空間は広く、適度な明るさと落ち着いた雰囲気となっている、離れた一角にソファやベンチを置き、気分転換や居心地よく過ごせるよう工夫している。また、混乱を招かないよう利用者目線での視野に配慮し、シンプルで分かり易い生活空間となるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個々の居場所が快適に過ごせるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>気に入っている物や馴染みのある物を持ち込んでもらっている方もあるが、重度化に伴い、家具が障害物や危険物などになってしまうことから、殺風景な空間となっている方もある。</p>	<p>馴染みのタンスや仏壇、写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう本人と一緒に配置をしている。状況変化時は、配置変えなどを行い、本人にとってベストな居室になるよう配慮と工夫が行われている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人一人の出来ることを尊重し、コミュニケーションを図りながら、安心できる環境作りを提供している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームファミリーホーム

作成日 令和1年6月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	54	BPSDの増悪により私物を居室から一時預かりとしており、自分の部屋感が薄い。	一時預かりとなっていた語本人の私物を居室に戻し、本人の空間を取り戻す。	日々の整理整頓、清潔保持について徹底する。家具などを再配置していく。転倒リスクが急増するため注意が必要。	1年
2	17	入浴が業務的な部分があり、入居者のペースが生かしきれていない。ご本人の能力向上につながっていない。	個別時間を確保した入浴の提供。	個別ケアの実践が徐々にスタートしてきているが、全体の2～3割程度となっている。引き続き取り組んでいく。	1年
3	49	入居者個別の外出支援の頻度が少ない。	外出支援の頻度を増やす。	昨年から引き続き、取り組んでいる。現在は月に1度は行事外出が増加となっている。生活的外出(買い物など)も追加していく。	1年
4	10	ケアプランの作成に対し専門職の意見に偏りがあるように感じる。	すべての職員がプランニングしていく。	月に一回以上の研修時にディスカッションを実施しているが、共有できていないものがあつた。更に細かな共有ツールを作成する。	1年
5	12	定期的な研修会の実施。	皆で育てる環境を作る。	月に一度の研修会を実施している。スキルやモチベーションの向上が期待される環境を整えていく。	1年
6	18	個別にゆっくりと関わられる時間を確保していく。	生活空間に場所を設けていく。	職員が隣に着座することから徐々に始めていき、食事やおやつとともに過ごすサービスとして確立して行く。	1年
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。